

高等学校第3学年 公民科 現代社会 学習指導案

期 日 平成28年10月14日(金) 第6校時

場 所 熊本県立南関高等学校 ラーニングルーム1

指導者 教諭 川崎 裕子

1 単元名

「豊かな社会の実現を目指して」(「高等学校 新現代社会」 帝国書院)

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、現代の経済社会の変容などに触れながら、雇用、労働問題、社会保障について理解を深めさせるとともに、個人や企業の経済活動における役割と責任について考察させるものである。特に社会保障については、制度の意義と課題を整理し、少子高齢化の進行や保険料の負担などとの関係を通して持続可能な社会保障制度について考えさせる必要がある。

これらのことから、本単元において持続可能な社会の形成に参画するための「積極的なコミュニケーション能力」の獲得が期待され、本校の学校教育目標の「地域を思い、地域を積極的に支えていくたくましい人間力の育成」及び目指す生徒像の「自分の考えや意見を発表し、文章にまとめることができる生徒」の実現につながるものであると捉える。

(2) 系統観

中学校	第3学年(10月) 本時	第3学年(1月)
[公民的分野] 1 目標(2) 2 内容 (2) 私たちと経済 イ 国民の生活と政府の役割	「豊かな社会の実現を目指して」 第1節 現代社会 1 目標 2 内容 (2) 現代社会の人間としての在り方 エ 現代の経済社会と経済活動の在り方	「持続可能な社会の形成」 第1節 現代社会 1 目標 2 内容 (3) 共に生きる社会をめざして

(3) 生徒観

○現在在籍している3年生は南関高校最後の卒業生になる。2クラス4コース構成となっているが在籍数は15名であり、少しでも多くの意見を授業に反映させるため、公民科では2クラス合同で授業をしている。これまでの授業でも各単元に関する社会問題について班別協議をする時間を設けたり、体験的な授業を多く取り入れたりすることで、現代社会の諸課題の解決へ向けて主体的に取り組む態度を育成してきた。しかし議論の深まりはグループによって差がある。そこで、すべての生徒がどのようなグループに属しても自分の意見を主張し、相手の意見を受け入れながら、合意形成を目指す態度を育成する必要がある。

(4) 指導観

○5ヶ月後に卒業を控え、生徒たちは進路の決定に向けて日々努力している。このような生徒たちに、社会へ巣立ち、生き抜いていくための実践的な力をつけさせなければならない。しかし多くの生徒は現代社会に山積している諸課題を自分のこととして十分に捉えきれずにいる。それは、本単元で取り上げる社会保障制度についても同様である。そこで、生徒たちにどのような場合でもすべての人が安心して暮らせるように社会全体で支え合うという社会保障の意義を理解させ、すべての人が安心できる社会保障制度について考えさせる必要がある。このことを通して、持続可能な社会の形成に参画しようとする資質を高め、現代社会の諸課題について主体的に考え、判断できる、良識ある公民として必要な能力を育んでいきたい。

学びを引き出す
学習活動を生む
「問い」の工夫
(言語活動の充実)

①「当事者意識を生む問い」を設定して、現代社会の諸課題について考えさせる中で、自己・他者・教師・教材との豊かなかかわり合いによる対話を充実させ、現代社会に対する関心を高め、積極的なコミュニケーション能力や持続可能な社会の形成に参画しようとする資質の育成を図る。

学びを振り返る
思考過程の可視化と
学びの振り返り

②自分の考えと班員の考えとの違いを見取ることができるようなワークシートを用い、思考過程を可視化する。
③振り返りの場面において、学習内容を振り返るだけでなく、自らの考え方の変容をまとめさせることによって、現代社会の諸課題について主体的に考え、判断できる、良識ある公民として必要な能力の育成を図る。

学びを支える
学びのUD化とICT
の活用及び支持的風土

④生徒一人一人の学習への「参加」「理解」「習得」「活用」を保障する取組を計画的・継続的に実施するとともに、ICTを効果的に活用しながら様々な教材を提示し、考えるために必要な知識等を共有する。

3 単元の目標と評価規準（参考：国立教育政策研究所作成「評価規準の設定例」）

単元の目標	現代社会における諸課題について理解を深め、世代、環境、性別などにかかわらず、すべての人が安心して生活することができる社会の実現のためにできることを考え、まとめることができる。		
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
①現代社会の諸課題についての興味・関心が高まっている。 ②課題解決のための討論に積極的に参加している。	①現代社会の諸課題について整理し、説明している。 ②課題解決のための具体的方策を考え、説明している。	①資料から、現代社会の課題を読み取っている。	①経済社会の基礎となる仕組みやきまりを理解している。

4 指導・評価の計画（8時間取扱い 本時8／8）

単元を貫く問い：だれもが安心して生活することができる社会を実現させよう。

次	時	学習活動	評価及び研究の視点
1	2	1 公害に関する歴史を知る。 2 政府や企業の環境保全に対する取組を知る。 3 循環型社会をめざして自分にできることを考える。	【知識・理解】①：単元テスト（7割以上の正解） 【学びを支える】 ④ICTを活用して、視覚的に理解を深める。 【思考・判断・表現】①②：ワークシート（内容の記入状況） 【学びを引き出す】 ①他者との対話の中で、自分一人では考えることができなかったことに気付く。
2	1	1 契約に関する基本的な考え方について理解する。 2 消費者基本法などを踏まえ、消費者としての権利や責任について考察する。 3 消費者を取り巻く諸問題にどのように対応していくべきか考える。	【知識・理解】①：単元テスト（7割以上の正解） 【思考・判断・表現】①②：観察（他者との積極的な意見交換） 【学びを引き出す】 ①他者との対話の中で消費者問題への対応策を考え、消費者問題を自分ごととして捉える。

3	3	<ol style="list-style-type: none"> 1 市場経済における労働者の役割について確認する 2 労働基本権, 労働三法について理解する。 3 失業率問題や非正規雇用問題などについて考える。 4 外国人労働者の受け入れを拡大していくための方策について考える。 	<p>【知識・理解】①：単元テスト（7割以上の正解）</p> <p>【学びを支える】</p> <p>④ ICTを活用して, 視覚的に理解を深める。</p> <p>【資料活用の技能】①：ワークシート（読み取った内容の記入。）</p> <p>【思考・判断・表現】①②：観察, ワークシート（意見の発表状況, 解決策の記入状況）</p> <p>【学びを引き出す】</p> <p>①資料・他者との対話の中で労働問題への対応策を考え, 自分の理想の働き方について考える。</p> <p>【学びを振り返る】</p> <p>②二項軸を用いたワークシートを活用し, 考えた観点によって視覚化できるようにする。</p>
4	2 (本時2/2)	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会保障の意義を理解する。 2 日本の社会保障制度を理解する。 3 日本の年金制度を理解する。 4 日本の年金の財源の調達方法を理解する。 5 日本の年金制度の課題を理解する。 6 持続可能な年金制度のあり方を考える。 	<p>【知識・理解】①：単元テスト（7割以上正解している。）</p> <p>【学びを支える】</p> <p>④ ICTを活用して, 資料を全員で共有する。</p> <p>【思考・判断・表現】①②：観察, ワークシート（意見の発表状況, 制度の記入状況）</p> <p>【関心・意欲・態度】①②：ワークシート（自己評価の状況）</p> <p>【学びを引き出す】</p> <p>①資料・他者との対話の中で持続可能な年金制度について考える。</p> <p>【学びを振り返る】</p> <p>②二項軸を用いたワークシートを活用し, 考えを視覚化できるようにする。</p> <p>③振り返りシートを活用し, 単元の学習を通して現代社会の諸課題について主体的に考えることができたかを自ら振り返る。</p>

5 本時の学習

(1) 目標

資料を根拠として、多様な意見を踏まえながら持続可能な年金制度のあり方について考えることができる。

(2) 展開

過程	学 習 活 動	指導上の留意点及び評価	備考
導入 15分	1 本時の目標を確認する。 学習目標 資料や友人の意見を踏まえて、持続可能な年金制度のあり方を考える。	【視点3】学びを支える <u>学習目標と本時の流れを説明し、生徒が見通しをもつて授業に参加できるようにする。</u>	パソコン (パワーポイント)
展開 25分	(1) 本時の問いについて、既習の知識をもとに考える。 本時の問い 100年安心の年金制度を考えてみよう。	【視点2】学びを振り返る <u>本時の学習前の、自分の考えを整理する。</u> ○考える時間を明示し、メリハリを持たせる。	ワークシート
	(2) 少子高齢化の進行に伴い、若者の負担が増えていくことに気付く。 (3) 世代ごとに保険料の負担額と年金給付額の差が激しいことに気付く。 (4) 国民年金の未納率が上昇していることに付き、年金制度のあり方に対する問題意識を高める。	○細かい内容には立ち入らず、生徒の問題意識を高めるようにする。 【視点1】学びを引き出す <u>資料をとおして、日本の年金制度の課題を自分のこととして捉えることができるようにする。</u> 【視点3】学びを支える <u>資料を拡大したものを黒板に示すことで学習への参加をうながし、理解を深めさせる。</u>	パソコン (パワーポイント)
	2 [本時の問い]について話し合う。 (1) 本時の問いについて、本時の学びと資料をもとに考え、自分の考えをワークシートに記入する。 (2) 班員の意見を聞く。 (3) 班の意見を一つにまとめる。 (4) 班の意見を発表しあう。 【言語活動】(設定の意図) 年金制度については、保険料を納める側と受け取る側の両方の立場から考えていかなければならない。他者との対話の中で自分では気付くことができない視点に気付くことを通して、社会に参画する力、広い視野でものごとを考える力を育む。	○活動の時間を区切り、テンポよく話し合いが進むようにする。 【視点1】学びを引き出す <u>個人で課題に向き合い、考える時間をとった後に、意見を出し合い、比較・検討して意見を一つにまとめる言語活動を通して、積極的なコミュニケーション能力を育む。</u> 【視点2】学びを振り返る <u>思考ツールを用いて各自の解決策を分析させ、思考を深めさせる。</u> 評価：思考・判断・表現(ワークシート・観察) B基準 班の中で、根拠をもって自分の考えを表現することができる。 A基準 対立する意見を、公正や持続可能性等の視点で比較・検討し一つの意見にまとめることができる。 (B基準に達していない生徒への手立て) ○財源確保の方法について、3つの方式から1つ選ばせ、その理由を説明させる。	タイマー ワークシート

<p>整理 10分</p>	<p>3 学習したことを振り返る。 (1) 社会保障についての学習を通して分かったことや、知りた いと思ったことをワークシ ートに記入する。 (2) 自己評価をする。</p>	<p>【視点2】学びを振り返る <u>学習を通して、自分の考えがどのように変わった かを振り返る。</u></p> <p>【視点3】学びを支える <u>生徒の自己評価に対して、教師がコメントを返すこ とで、指導と評価の一体化を図る。</u></p>	<p>ワークシ ート</p>
-------------------	---	--	---------------------